

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報

2020.3.5

No.373

東京・羽村平和委員会発行



以下 すべて 3月2日付 しんぶん赤旗より



第二部②

横田が「戦争拠点化」

首都・東京に居座る米軍横田基地（福生市など5市1町）。

CV22オスプレイの配備やパラシュート降下訓練、夜間飛行の増加など、異常な強化が進んでいます。その背景を探ると、中国など周辺諸国を念頭に置いた「戦争拠点化」の動きが浮かび上がってきます。

墜落恐怖感じる

2月13日午前、横田基地近隣に住む後藤太刀味さん（75）は「信じられない光景」を目撃し



滑走路南側に整列した7機の米空軍C130輸送機＝2月10日、東京・横田基地（羽村平和委員会提供）



米アラスカ州の第4空挺部隊による100人規模のパラシュート降下訓練＝2012年1月10日、東京・横田基地（羽村平和委員会提供）



ました。米空軍C130輸送機2機が住宅地の真上を低空飛行し、翼を60度ほど傾けて旋回したのです。「10年住んでいるがこんな極端に機体を傾けるのは初めて見た。墜落するのではな

いかと恐怖を感じた」羽村平和委員会によると、2月10～14日に米アーカンソー州リトルロック基地からC130J輸送機が多数飛来。横田所属のC130を加えて最大7機が

関東各地で編隊飛行訓練を行いました。「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の高橋美枝子代表も車内から目撃し、「今まで見たことない低空飛行だった。巨大な機体が車を覆うように飛んだ。まるで植民地のような」と語りました。

オバマ前政権時、米国の戦略的軸足を中東からアジア太平洋地域に移す「リバランス（再均

衡）」が本格化した2012年以降、全国で在日米軍の新たな強化が進みました。在日米軍司令部がおかれる横田基地も、アジア太平洋地域の空輸拠点としての従来の機能に加えて、出撃拠点としての著しい強化が進んでいます。

降下訓練常態化

12年1月10日、1000人規模のパラシュート部隊が無通告で横田基地に降下。強行したのはアラスカ州の第25歩兵師団第4空挺旅団戦闘団でした。以来、横田では敵地への侵入を想定した大規模なパラシュート降下訓練が常態化。最近では高度約3000呎で降下を開始し、低い高度でパラシュートを開く訓練が増えています。地元住民は「音もなく突然米兵が降りてくる」と言います。

同訓練は米本土の部隊に加え、トリステーション（沖縄県読谷村）の米陸軍第1特殊部隊群第1大隊や在沖縄米海兵隊の実施が目立っています。沖縄では、基地外落下などの事故が相次いでいることから反発が強いため、訓練の一部を横田に移したとみられます。

さらに18年4月から特殊作戦機・CV22オスプレイが配備され、19年7月には同機を運用する第21特殊作戦飛行隊が発足。沖縄・嘉手納基地所属のMC130特殊作戦機の飛来も常態化するなど、特殊作戦部隊の拠点化も進んでいます。

こうした動きの背景として、軍事情報アナリストの小柴康男さんは「敵地に侵入する特殊作戦部隊は、地形に忠じて機体を隠しながら飛行する訓練も行う。沖縄と違って東日本には高い山や平野、ダムなどがあり、特殊作戦の最適な訓練場所だ。また、沖縄と比べるとパラシュート降下訓練への自治体の反発が小さいのも理由では」と指摘しました。

↓関連③面

首都の基地 攻撃対象

横田基地周辺も水質汚染

台、米軍部隊は「標的になり
うる基地からの速やかな退
避」をすべきたと結論付けて
います。
小泉氏は、在日米軍基地は
「出撃拠点」どころか「使い
捨ての軍事要塞」になってし
まうと指摘。「米軍がいるか
ら日本は安全」と信じてい
る首都圏に存在する横田基地
が攻撃目標になることが、と
米軍は有事になれば日本から
の避難を真剣に考えているの
話ではありません。

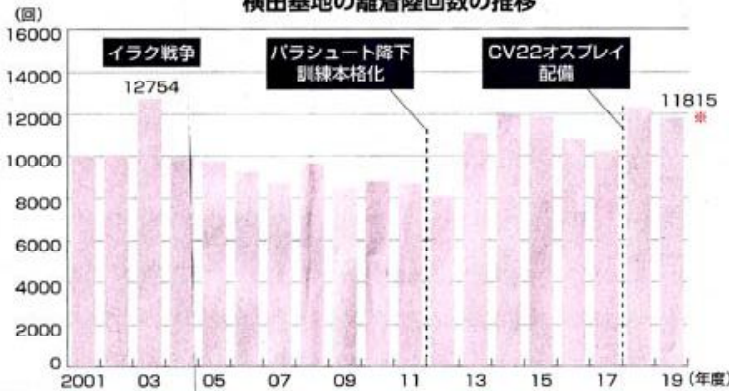
横田基地では、戦闘機の飛
来増加も顕著になっていま
す。羽村平和委員会による
と、▽2016年1月20～22
日にF22ステルス戦闘機が14
機、F16戦闘機が6機▽同年
7月30～8月3日にF16が14
機▽17年7月30～8月3日に
F16が14機▽18年7月7日に
F22が7機など一度に多数
の戦闘機が飛来しています。

離着陸数が急増

こうした訓練や出撃拠点化
で離着陸回数が増え、周辺
住民への騒音被害が深刻化し
ています。福生市の航空機騒
音調査によると、18年度の離
着陸回数は1万2313回、
前年度比で約20%増加しまし
た。19年度は20年1月末時点
で1万1815回に達し、イ
ラク戦争が勃発した03年度
(1万2754回)を超える
ペースです。(グラフ)

CV22オスプレイが配備さ
れた18年からは夜間の飛行訓
練も急増しました。福生市の
調査では、18年度の午後7～
9時の離着陸回数は2567
回、前年度比で約52%増加。
19年度は1月末時点で293
8回となり、前年度を上回っ
ています。午後には横田を離陸
し、夜遅くまで周辺地域を飛
行し、飛投するのがCV22の
主な飛行パターンです。オス

横田基地の離着陸回数の推移



※19年度は2020年1月末時点。福生市「航空機騒音調査」から作成。

離陸するCV22オスプレイ(1月6日、東京・横田基地(羽村平和委員会提供))



横田基地に飛来したF22ステルス戦闘機=2016年1月26日(東京都福生市)

ブレイは独特の重低音を響か
せ、低周波による健康被害も
懸念されます。

横田基地での訓練激化に伴
う被害は、単に同基地周辺だ
けの問題ではありません。同
基地所属のC-130訓練エリ
アは関東全域から伊豆半島に
まで広がっています。さら
に、1都9県にまたがり、米
安全保障環境の課題を突きつ

けている。直近の脅威は北朝
鮮だが、長期的・戦略的な最
大の脅威は中国だ。中国がま
すまず経済、軍事、外交能力
をあらわにし、威圧的な形で
国際秩序に抗している。在
日米軍のシュナイダー司令官
は2月25日、日本記者クラブ
での会見でこう述べ、「中国
脅威」を強調しました。

1面報道の、オバマ政権下
で進められた「リバランス」
戦略の大きな背景には台頭す
る中国があり、トランプ政権
は台頭する中国に対抗する動
きをさらに強めています。軍

事情報アナリストの小泉康男
さんは、横田基地への戦闘機
の飛来増加も、「中国軍の
強化とあわせ、従来の戦闘機
の出撃拠点である三沢・嘉手
納に加えて、横田も出撃拠点
としての役割が与えられてき
ている」とみている。

ただ、仮に中国との全面衝
突になれば、どうなるのか。
17年6月に米海軍のシユガ
ト大佐らがまとめた報告書
「先制攻撃・アジアの米国防
点に対する中国のミサイルの
脅威」は、中国の弾道ミサイ
ル能力の向上によって撃墜不
可能な最新弾道ミサイルの攻
撃範囲内に、日本の米軍基
地が入ると指摘。想定される
攻撃対象に①横田②三沢③横
須賀④岩国⑤佐世保⑥嘉手納
などを列挙しています。

有事で米軍避難
報告書は、米軍が台湾や南
シナ海など中国の「戦略的利
益」を脅かし、中国が米国防
の介入を阻止できない場合、在
日米軍基地への先制攻撃もあ
りえる」と指摘。このような状
況下で米中戦争に突入し、ミ
サイル攻撃を防げない場合

地位協定理由に調査拒む米

ことが明らかになりまし
た。昨年1月には、横田
基地近くの立川市の井戸
水から、両物質合わせて
1340ナノグラム(1ナノ
10億分の1%)が検出さ
れ、その値は米国の飲用
水の勧告値(1リットルあたり
70ナノグラム)の19倍にあたり
を正式に発表しました。
小泉氏は、基準値の基に
水源汚染を研究してきた
小泉昭夫京都大名誉教授
は、PFOS・PFOA
データと同じものであ
る新生児への影響を指摘
しています。小泉氏は、19
99年に沖縄県が発表し
た調査報告書で、汚染が
疑われる那覇、宮野湾、
沖縄各市の低出生体産児
出生率が、汚染の可能性
が低いとされる南城市よ
りも高かったことに言
及。大阪府の化学メーカ
ーがPFOAの使用をや
めた後、隣接する摂津



有機フッ素化合物PFOSを含む泡消火剤を使って消火活動を行う米軍(米国防総省の公式ホームページから)

問題が深刻化する一方
で、米軍は日米地位協定
を理由に、基地での立ち
入り調査を拒み続けてい
ます。